

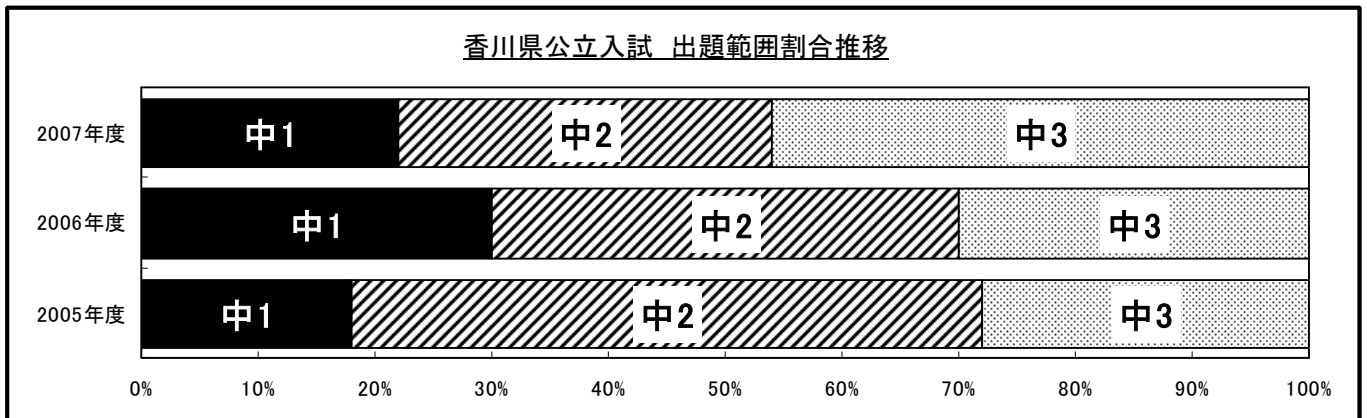
1. 大問別出題内容の変遷

	2005 (平成 17) 年度	2006 (平成 18) 年度	2007 (平成 19) 年度
1	独立小問集合 (計算)	独立小問集合 (計算)	独立小問集合 (計算)
2	独立小問集合 (図形)	独立小問集合 (図形)	独立小問集合 (図形)
3	独立小問集合 (確率, 関数, 文字式)	独立小問集合 (確率, 関数, 文字式)	独立小問集合 (確率, 関数, 文字式)
4	独立小問集合 (規則性, 関数, 方程式)	独立小問集合 (関数と方程式)	独立小問集合 (確率, 2次関数)
5	平面図形 (合同の証明)	平面図形 (合同の証明)	平面図形 (合同, 相似の証明)

2. 小問数の推移

2005 (平成 17) 年度	2006 (平成 18) 年度	2007 (平成 19) 年度
23 問	24 問	23 問

3. 出題割合の推移



4. 出題傾向分析と対策 昨年との問題レベル比較→やや易化

傾向	例年大問1から4までの問題がそれぞれ独立小問形式となっており, 中1から中3の3年間習ったほとんどの単元での出題が見られ, 少しも気を抜けない状況である。また, 全体的に空間図形の出題頻度が低いのが特徴である。記述問題としては, 証明と求め方を書く問題などが出題され, 論理性と表現力が必要とされる。
対策	大問2番以降の独立小問問題についてはそれぞれが少し考える理解度の深さを試す問題となっており, 一段高いレベルの問題の履修が必要とされる。また, 証明問題は全部記述する形式のため, すべての要素をきっちりと把握し, 論理的に表現する練習を日ごろから心がける必要がある。

5. 本年度入試の注目問題

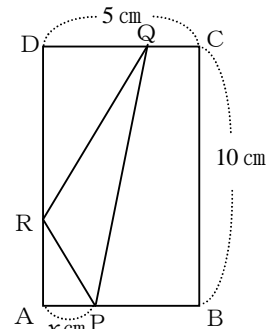
問題4 (2) 右の図のような, 長方形ABCDがあり, $BC=10\text{ cm}$, $CD=5\text{ cm}$ である。点Pは辺AB上を点Aから点Bまで動く点である。点Qは, 辺CD上を, $CQ=AP$ となるように動く点であり, 点Rは辺AD上を $AR=2AP$ となるように動く点である。また, 点Pと点Q, 点Qと点R, 点Rと点Pをそれぞれ結ぶ。点Pが2点A, Bと異なる点であるとき, $AP=x\text{ cm}$ として, 次のア～ウの問いに答えなさい。

ア 四角形PBCQの面積を $y\text{ cm}^2$ とするとき, x と y はどのような関係にあるか。次の①～④から, 正しいものを1つ選んでその番号を書け。

- ① y は x に比例する ② y は x に反比例する
 ③ y は x の2乗に比例する ④ y は x が変化しても一定である

イ $\triangle DRQ$ の面積は何 cm^2 か。 x を使った式で表せ。

ウ $\triangle PQR$ の面積が, $\triangle DRQ$ の面積の3倍になるのは, x の値がいくらのときか。 x の値を求める過程も, 式と計算を含めて書け。



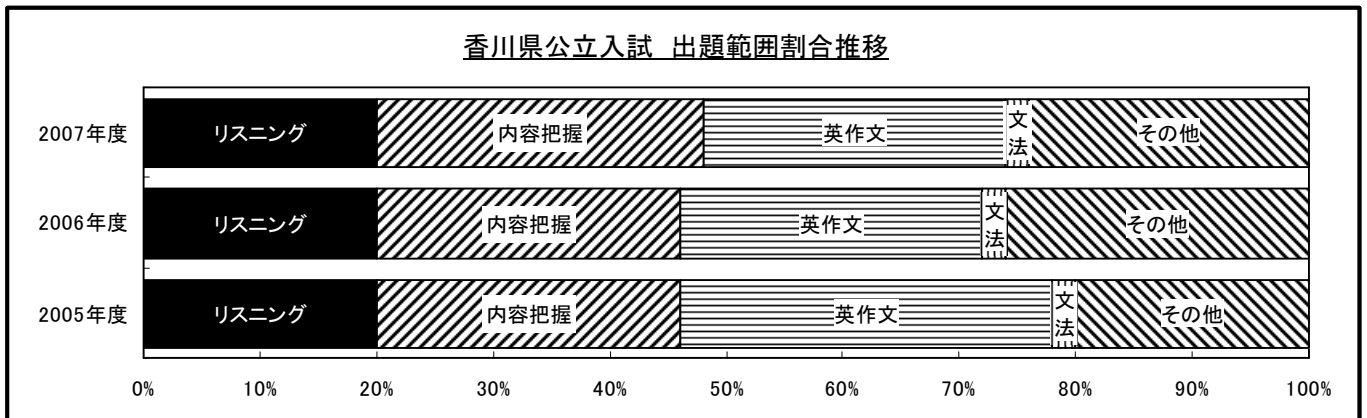
1. 大問別出題内容の変遷

	2005（平成17）年度	2006（平成18）年度	2007（平成19）年度
1	リスニング	リスニング	リスニング
2	発音・語句補充	発音・語句補充	発音・語句補充
3	対話文読解	対話文読解	対話文読解
4	長文読解	長文読解	長文読解
5	英作文	英作文	英作文

2. 小問数の推移

2005（平成17）年度	2006（平成18）年度	2007（平成19）年度
32問	32問	32問

3. 出題割合の推移

4. 出題傾向分析と対策 昨年との問題レベル比較→昨年と同様

傾向	リスニング・読解問題・英作文に加えて、発音問題が1問出題されている。全体の難易度はそれほど高くないので、この発音問題で失点するケースも十分に考えられる。また、リスニング問題が他府県に比べて難易度が若干高い。
対策	発音問題は私立高校入試には頻出問題なので、少なくとも冬休み終了までには徹底しておく必要がある。「1問しか出題されないから」は禁句だと考えたい。読解問題は内容把握問題を中心に学習しておきたい。また、英作文は3文以上・25語以上（30語程度）で書くことができるように演習を進める。

5. 本年度入試の注目問題

- 5 あなたはカナダから来た中学生に日本の文化について紹介することになりました。日本の行事や食べ物のうちから、あなたが紹介したい具体的なものを1つ選んで、次の（注意）にしたがって英語で書きなさい。

（注意）①3文以上の英文で書くこと。②語数は全部で25語以上とする。③日本独特のものはローマ字で書く。

解答例

Japanese people like to look at beautiful cherry trees in spring. We have a party under cherry trees. We enjoy talking and eating there. The party like this is called Hanami.

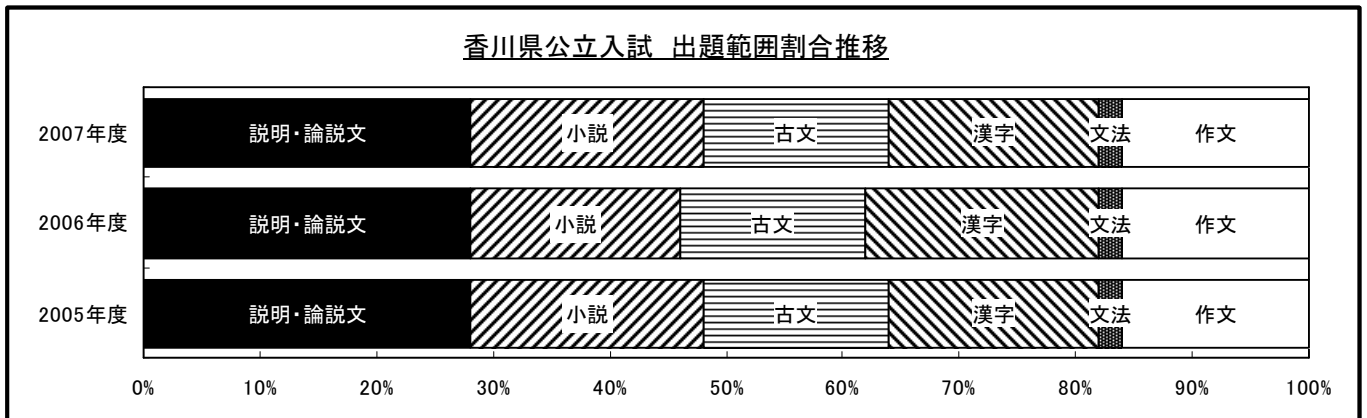
1. 大問別出題内容の変遷

	2005（平成17）年度	2006（平成18）年度	2007（平成19）年度
1	小説（井口素子の文章）	小説（辻内智貴の文章）	小説（伊集院静の文章による）
2	古文（橘成季「古今著聞集」）	古文（「落栗物語」）	古文
3	論説文（岩槻邦男の文章）	論説文（竹内均の文章）	論説文（榎本博明の文章による）
4	条件作文	条件作文	条件作文

2. 小問数の推移

2005（平成17）年度	2006（平成18）年度	2007（平成19）年度
29問	30問	29問

3. 出題割合の推移



4. 出題傾向分析と対策 昨年との問題レベル比較→昨年と同様

傾向	文学的文章、古文、論説文、条件作文の大問4題の出題構成のパターンが定着している。読解問題では内容を正しくつかむ問題が中心で、段落の構成の問題も例年通りの出題であった。記述の割合も昨年並みで、言葉に関する基礎的な知識や理解も問われている。条件作文は、中学卒業の記念として校内に建てる石碑をテーマとした内容で比較的書きやすい。
対策	比較的文章が長いので、長文に慣れておく必要がある。また小説では心情の把握、論説文では段落相互の関係、要点のまとめの練習もつんでおくことよい。条件作文については、さまざまなテーマで日ごろから書きなれておくことが必要である。

5. 本年度入試の注目問題

中学校の卒業記念として、校内に石碑を建てることになり、そこに刻む言葉として、「努力」、「友情」、「希望」の三つの言葉のうち、一つを選ぶことになりました。選び方は、卒業する生徒から、自分がよいと考える言葉について、意見文を提出してもらい、先生と代表生徒からなる選考会で決めるという方法です。石碑に刻まれた言葉は、今後長く後輩たちが見ることになります。

あなたがこの学校を卒業する生徒なら、どの言葉を選んで意見文を提出しますか。三つの言葉のうち、一つを選んで、あなたの意見を、その言葉がよいと考える理由がよくわかるように、体験や具体例を示しながら、次の〔注意〕に従って、解答用紙（その二）に、二百五十字程度で書きなさい。

〔注意〕

- 一 段落や構成に注意して百五十字（六行）以上書くこと。
- 二 原稿用紙の正しい使い方に従って書くこと。ただし、部分的な書き直しや書き加えなどをするときには、必ずしも「ますめ」にとらわれなくてよい。
- 三 題名や氏名は書かないで、本文から書き始めること。また、本文の中にも氏名や出身校名は書かないこと。

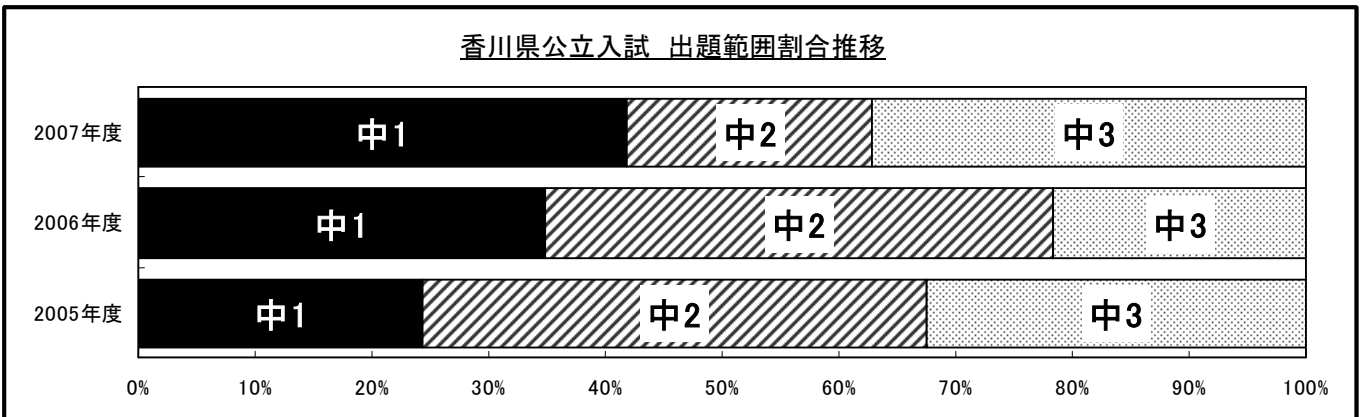
1. 大問別出題内容の変遷

	2005 (平成 17) 年度	2006 (平成 18) 年度	2007 (平成 19) 年度
1	A 地球と宇宙 (太陽系・惑星) B 天気の変化 (水蒸気と湿度・低気圧)	A 大地の変化 (火山と岩石) B 天気の変化 (気団と前線)	A 地球と宇宙 (地球の公転と太陽) B 大地の変化 (地層と化石)
2	A 植物のつくりとはたらき B 動物 (血液の循環) C 生物のつながり (食物連鎖・生殖)	A 細胞と生殖 B 植物のしくみ (茎・葉) C 動物の反応	A 細胞 B 植物のはたらき (光合成) C 動物の分類
3	A 水溶液 (酸とアルカリ) B 化学変化 (燃焼・原子・質量)	A 化学変化と分解 B 化学変化と質量	A 状態変化 (蒸留) B 化学変化と質量・エネルギー
4	A 光 (屈折) B 電流 (抵抗・電力・発熱) C 物体の運動	A 音 B 電流と磁界・電力 C 運動とエネルギー	A 光とレンズ B 電流と回路 C 物体の運動

2. 小問数の推移

2005 (平成 17) 年度	2006 (平成 18) 年度	2007 (平成 19) 年度
44 問	48 問	44 問

3. 出題割合の推移



4. 出題傾向分析と対策 昨年との問題レベル比較→昨年と同様

傾向	物理・化学・生物・地学から各1問ずつの大問4問からなるが、各大問はA, B または A, B, C と分かれており、実質 10 問で構成されている。小問数が多く、問題文も長い。 全領域にわたる基本的な知識が必要であり、なおかつ科学的思考力も求められる。
対策	基本的な実験・観察問題が多いが科学的な思考力も求められている。計算問題も多いので注意が必要である。毎年、短文記述、作図問題がバランスよく出題されている。特に短文記述問題は毎年必ず出題されている。

5. 本年度入試の注目問題

4 A. 右図 I のような装置を用いて、凸レンズによるろうそくの像のでき方を調べる実験をした。これについて、次の問いに答えよ。

(1) 図 I のように、ろうそくの下を凸レンズの軸に合わせ、スクリーンにろうそくの鮮明な像ができるようにした。凸レンズの軸とスクリーンとの交点を X 点とすると、スクリーンにできるろうそくの像はどうなるか。次のア～エから最も適当なものを一つ選んで、その記号を書け。

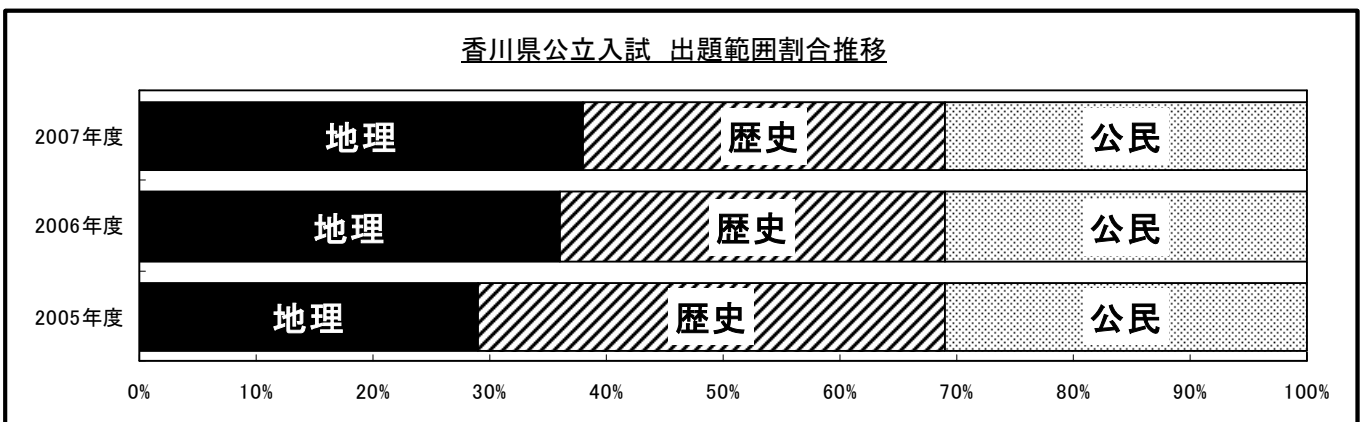
1. 大問別出題内容の変遷

	2005（平成17）年度	2006（平成18）年度	2007（平成19）年度
1	現代の民主政治・国民生活と経済	人権と日本国憲法 他	人権と日本国憲法・国民生活と経済
2	武家政治の展開・近代日本のあゆみ	日本のなりたち・古代・近世	古代国家の成立・近代日本のあゆみ
3	身近な地域・日本の産業 他	世界の国々・世界の地域構成	世界の国々・日本の地域構成

2. 小問数の推移

2005（平成17）年度	2006（平成18）年度	2007（平成19）年度
45問	45問	45問

3. 出題割合の推移

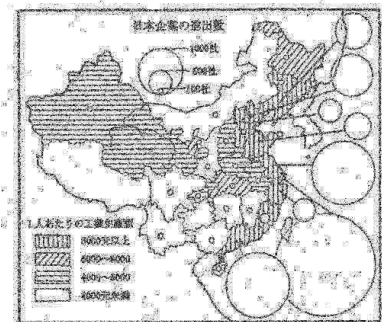


4. 出題傾向分析と対策 昨年との問題レベル比較→昨年と同様

傾向	<p>大問3題でそれぞれ地理・歴史・公民の分野別の出題となっている。地理は世界の国々から日本の諸地域・世界の諸地域まで全編より出題。統計資料を読みとる問題が出題されている。歴史は原始時代から現代までの範囲から出題されている。公民は、内閣不信任の流れを問う問題が見られた。例年通り、全般的に基本的な事項を問うているが、問題数が多い。地理・歴史は調べ学習を題材とした問題となっている。</p> <p>文章記述問題は昨年の10題から6題と減少。</p>
対策	<p>資料・グラフの読みとり問題はその資料が何をあらわしているかを理解できるようにしておく。教科書・テキストに記載の表・グラフでつねに慣れておく必要がある。歴史史料・写真については何時代かを連動させておく必要がある。文章記述問題については、資料との連動もあり、その時代の背景（基本事項）等の理解が必要。</p>

5. 本年度入試の注目問題

- 右の図は中国の各省1人あたりの工業生産額と日本企業の進出数を示したものである。図から、日本企業がたくさん進出しているところには、どのような特徴があるか。その地域的偏りと各省の1人あたりの工業生産額に着目して、簡単に書け。



注：香港・マカオ、台湾は含まれていない

【中国経済調査企業一覧2005-2006】などにより作成